

本草図譜卷之九十四目錄

芭水類

竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹
根	根	根	根	根	根	根	根
葉	葉	葉	葉	葉	葉	葉	葉
葉	葉	葉	葉	葉	葉	葉	葉
葉	葉	葉	葉	葉	葉	葉	葉
葉	葉	葉	葉	葉	葉	葉	葉
葉	葉	葉	葉	葉	葉	葉	葉
葉	葉	葉	葉	葉	葉	葉	葉
葉	葉	葉	葉	葉	葉	葉	葉
葉	葉	葉	葉	葉	葉	葉	葉

右き棺の木をや桶等を平古き物を用カ

震焼木

留の落て焼凡木を云ふ

河邊水

川の端にあり水

附録諸木ありとも詳ふくより少く記され

本草図譜 卷之九十四



本草圖譜卷之九十四

苞水類

竹

たけ

加名

かじりたきうり

藻塩草

寒

玉正

緑虎

本草和名
同並名先

草葦

同書引養性
粟集竹筍

此君

事切
異名

抱節君

上日

妬

母草

上日

戸魯孫

上日

東都 岩崎常正著
男 岩崎信正
門人 小山廣孝 校

本草圖譜

卷之九十四

一種	一種	一種	一種	一種	一種	一種
麻牛古竹	大明竹	ちりぢりたけ	不てちりく	孟宗竹	きんめいちりく	こまたけ
廿	十九	十七	十五	十三	十一	九
一種	一種	一種	方竹解	一種	一種	一種
迎露竹	唐竹	琉球竹	ちりぢりたけ	八百竹	あむらちりく	おきちりく
廿	廿	十八	十六	十四	十二	十



本草図譜 卷之九十四

化龍枝君子山 青士山 萃草 廣東新語
比封君便覽 カメーシ名 バンノウス産語

漢土ハ竹類甚ニ多ク本邦ハ少ク其内東北の國ニ至テ少ク四國ハハナリトシテも漢土ガ及ハレ集解中ニ載リ品ニ詳ラズ以下圖の上ノ名ヲ出テ詳カラズ其ノハ別小名不立ニ亦瓜邦の品ハ漢名ト合スルものハ和名ノミト出レ藥用ハ漢竹を以テ呂トテ苦竹ナリ以下の物ハ次ニ其ノ中ニ藥用ニ成ルものハ其ノ其ノ奇品を以テ之ニ凡竹を種ル五月十三日を以テ之ニ漢土ガハ醉日ト名ク嘗テハ葡萄ノ説生ト云フ竹ノ實を結ルニ集解中一年一花ト云フ一トモ今考ふるハ竹ノ根中ニ生ルハ毎年花實を生ジト云フ培養スル竹ノ根を新小おはし其ノ甚多クありテ養クンと云ハ五五年ニ一度マ竹ノ宿根を培去ルを云フト云レ

竹葉

藥用ハ淡竹若をナリト云レたれども二品ともハ氣味別ニシテ集解ニ詳ク

竹根

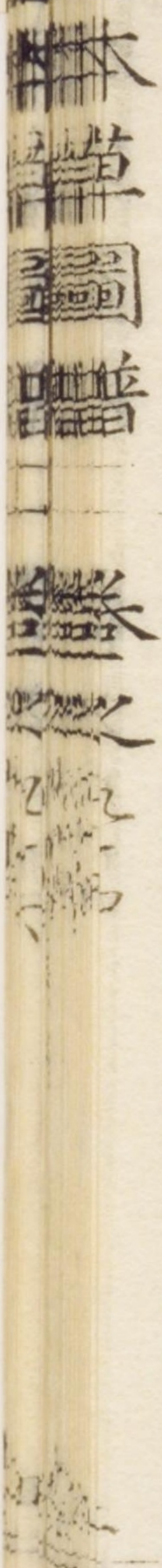
藥用ハ石の品ト云レ

竹茹

藥用ハ右の品ト云レ茹を製スル者ハ月竹を種テ青皮を削リテ用セテ藥店ノ品ハ多くハあまアツク物ナリト云レ擇ハ用セテ

竹瀝

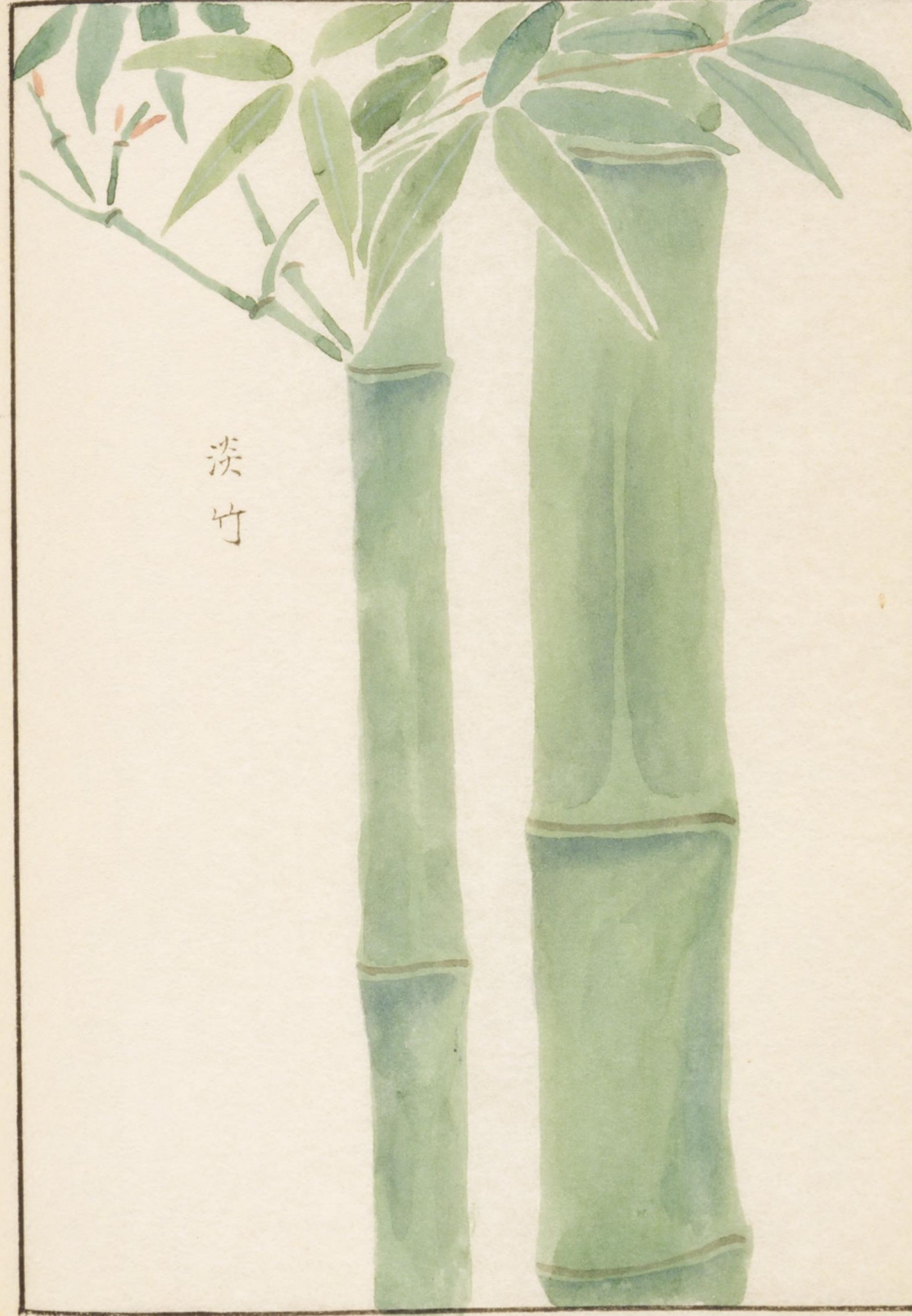
藥用ハ石の品ト云レ青竹を割テ火ヲ炮シ油を取リ用セテ



本草図譜 卷之九十四



大和本草に淡といふ竹は苦くさるる竹なり
諸國に多く種竹の形若竹より細く質
直より用せらるる竹は若竹より早く
生れ皮は斑紋あり褐色あり葉は若竹に
似て長さ三寸許り



淡竹

本草図譜 卷之九十四



本草図譜 卷之九十四

本草図譜 卷之九十四

竹の形状 淡竹を似て太
く大なるものハ周々一尺
四寸許不及ふ高きものハ
三丈余乃至る筍ハ淡竹
より晚く生し皮ハ斑大あり
了大く民用ハ利あり筍
の味ハ苦し

あぢけ くれたけ



苦竹 解



本草図譜
卷之九十四



一種

かぶつげ

竹の形状まれば似て
細一節の同短く節高く
質直ふふさふさ唯粗用
とおれり

本草図譜
卷之九十四
四



本草図譜 卷之九十四



志村藏書に載る
圖昔年景明或人
の園中よ生えり四
つて竹の形若竹ふ
似て根の上五六節
より四五尺分れ其
一本あり又兩竹とあり
梢に至り七八本とわ
り高き七八尺の過に此
呂旃の生えりとの之

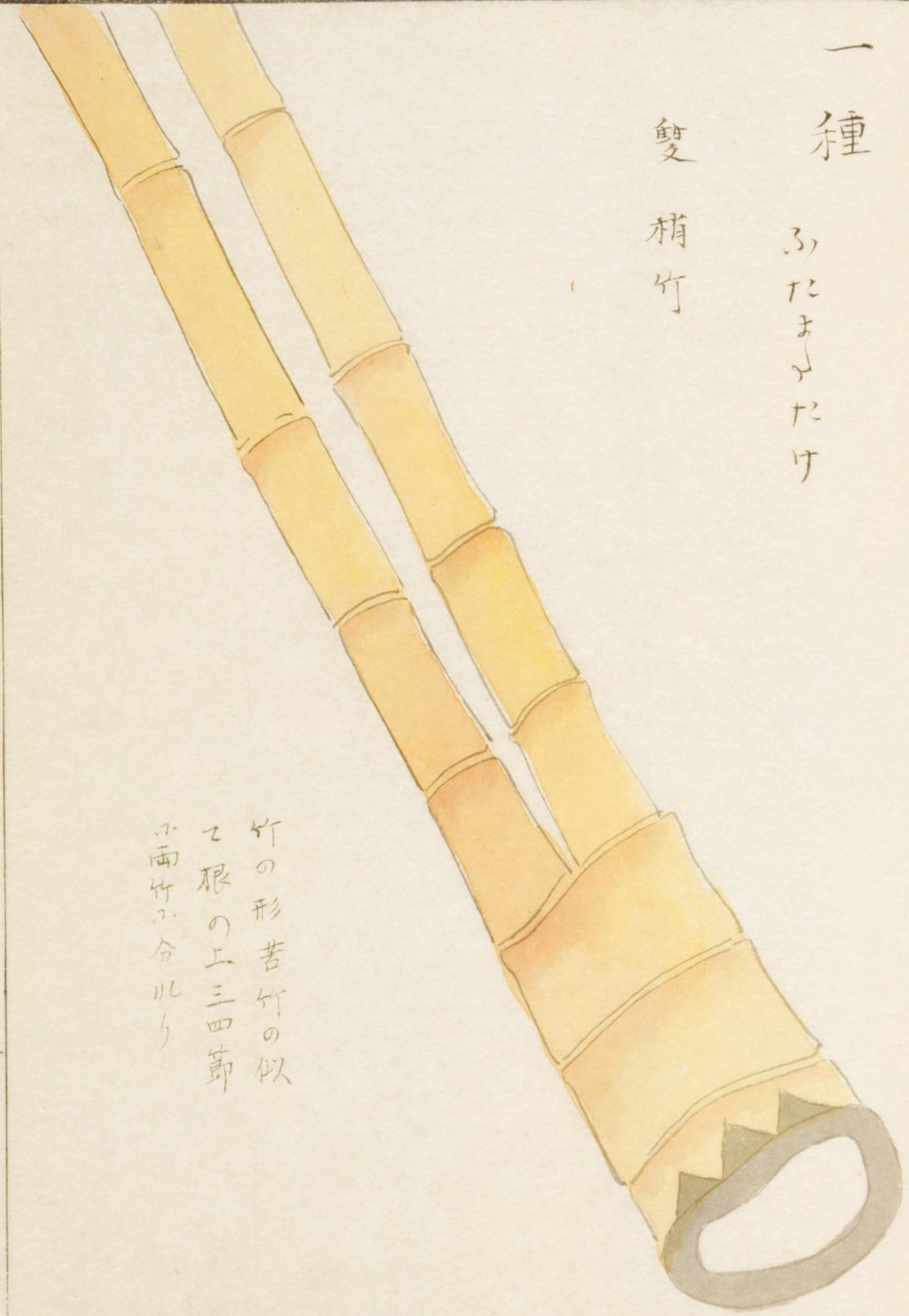


一種
合歡竹
竹譜詳録

本草図譜 卷之九十四



本草図譜 卷之九十四



一種

雙梢竹

ふたまたたけ

竹の形若竹の似
て根の上三四節
小兩竹に分れり

本草図譜

卷之九十四

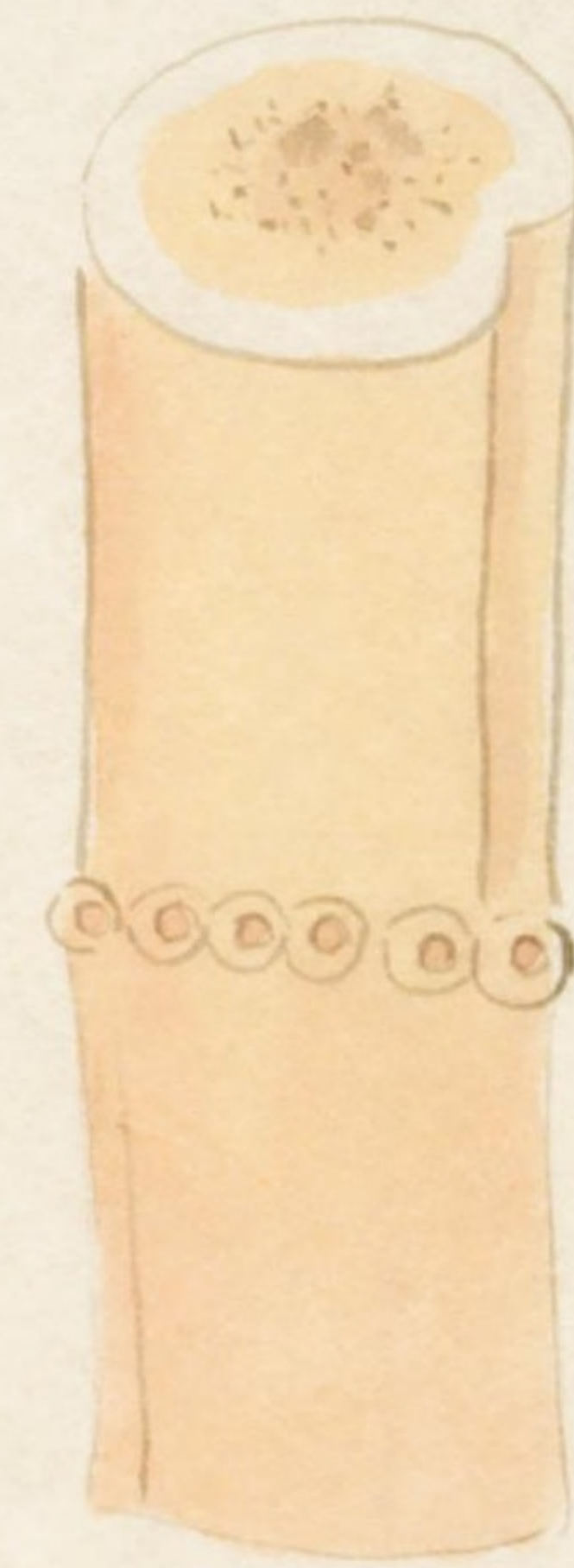
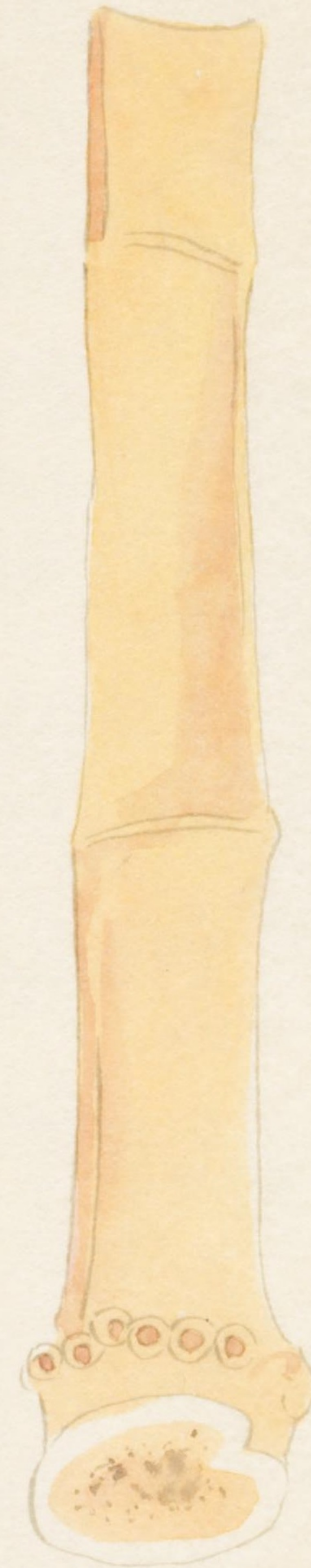
實中竹

實心竹

實竹

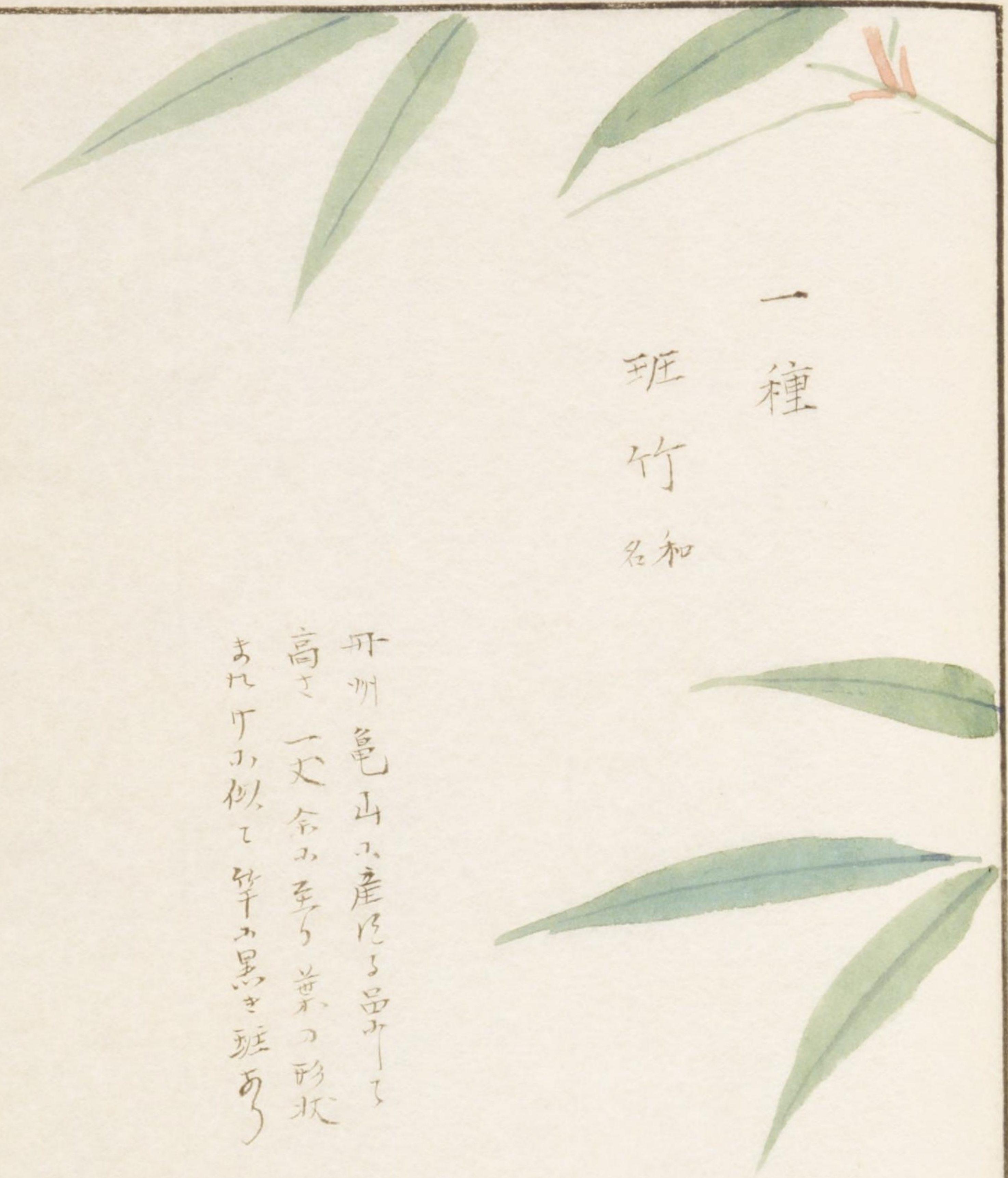
竹譜
詳録

阿品一字山ノ産バとソリ
竹の形若竹の似マ節の
間短ク心実ト穴ノ
船末の品ハ大ふトのあり
とソトも和産ハ細ト徑マ余
のモノノトク



本草図譜
卷之九十四

本草図譜
卷之九十四



本草図譜 卷之九十四



本草図譜 卷之九十四



一種

こまなけ

處々小あつ竹の形状若竹に似て
堅く徑寸余に及ぶ初生は青く
年を経ると黒紫色の斑を生
た枝とあり又傘の柄に用ひ履
頰の説小若竹有紫と云ふもの
なり



本草図譜 卷之九



竹の形状苦竹に似て細く漸く徑く
 寸許の葉の形状も苦竹の如く百色の
 節ありて甚く美なり

本草図譜 卷之九



一種
 おきあれけ



本草図譜 卷之四



一種
きんのりちく
黄金間碧玉竹
竹語詳録
竹の形状若竹ハ
似こ太き漸く三
寸許り枝の附く
処ハ深緑色を以
外黄色とす枝ハ
細きゆめ至りて
黄色ふもろく是
なり

本草図譜 卷之四



本草図譜



竹の形状若竹小似て細く
竿小青色なく深黄色なり
て美し葉も細くしてふん



一種
金竹
おんしんちく
竹譜
詳録

本草図譜



本草図譜 卷之八十四



一種

孟宗竹

和漢通名

聖竹

竹譜詳録

江南竹 八國通志

元琉球より渡りしつゝ諸国多く
種ご筒を賣り竹の形状若竹に似
て白く牙うと節の間短く肉厚く
質軟くやうやうヤマト唯花統之
筆筒小作の筒と若竹より小く軟く
なりて薄し



本草図譜 卷之八十四



本草図譜
卷之九十四

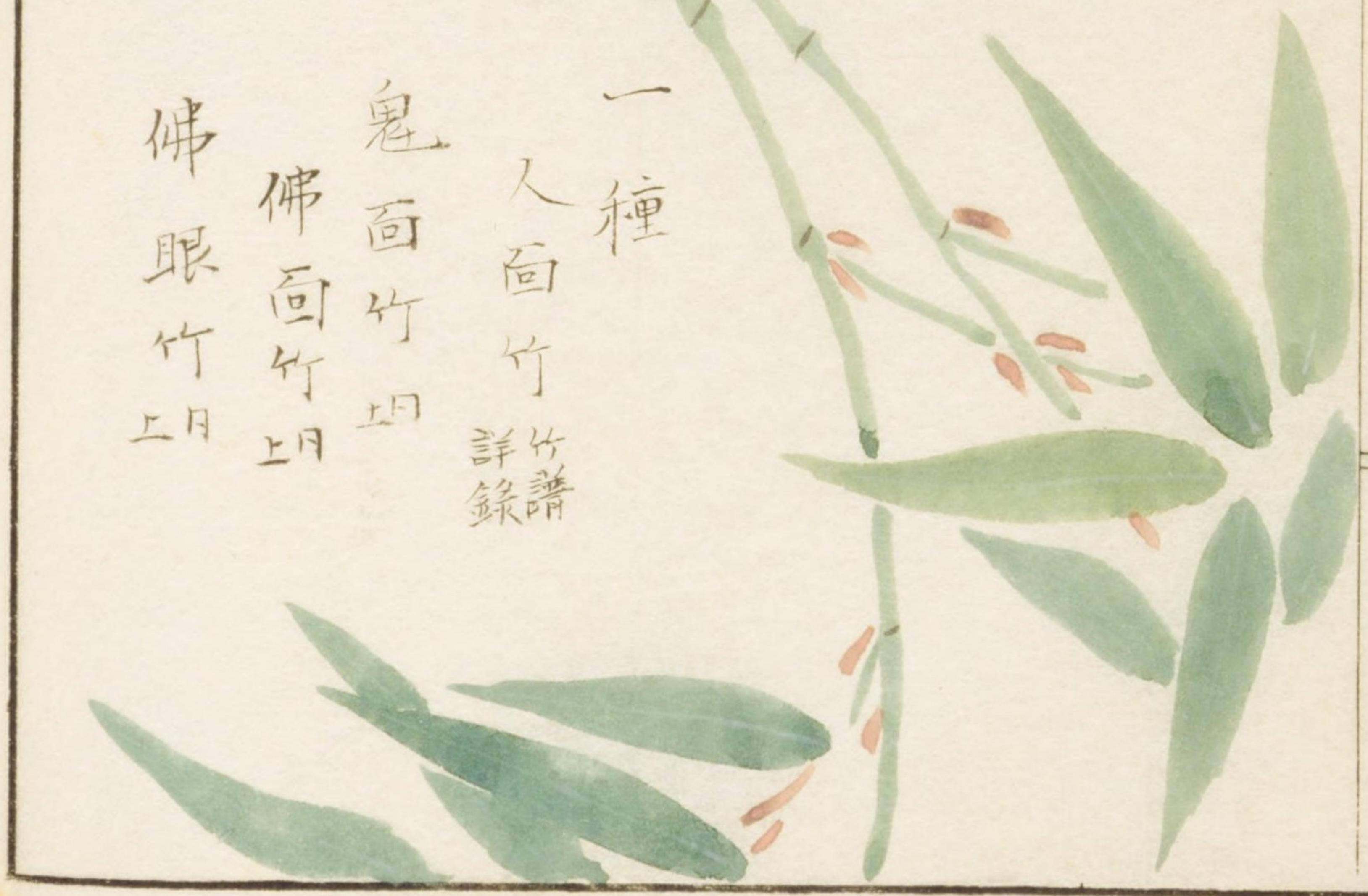


竹の實孟宗竹不
似之節の形状龜
甲を有し干すと上
の節の節の形あり
長を水の高まで八尺
不過凡太きもの径
三寸許り至九葉の
形も孟宗竹の葉の如

本草図譜
卷之九十四



一種
人面竹 竹譜
鬼面竹 詳録
佛眼竹 上



本草図譜 卷之九十四



人面竹

本草

薑竹

竹

竹譜 詳録

元琉球産ありこころ竹の形佛面竹に似て細く高さ六七尺節の形根の上尺許りの間密に上り其上常の竹の節の如く枝の造り又釣竿の造り用也

一種



不ていちく

おごんちく

琉球たけ

本草図譜 卷之九十四



本草図譜 卷之十四



元琉球産竹と似て
竹の形若竹に似て
軟く径七八分許
ノ四稜ノて角平
杖に似たり
苦竹より大く長く葉
上より大なるもの有り



方竹 解集
ちくくちけ

本草図譜 卷之十四



本草図譜 卷之九十四



竹の形若竹不
めれけの同あ
るのしる真不
軟くあり高き
一丈余の間に葉
も若竹の似る少
し大ひく

本草図譜 卷之九十四



一種

竹のしる

本草図譜 卷之九



本草図譜 卷之九

一種

琉球竹

竹の形ありて
小く似て葉も
小く小く



本草図譜 卷之九

竹の形はけし
似て直ならず高
さ丈許り葉は
苦竹に似て濁
大い



一種
大明竹



本草図譜 卷之九

本草図譜 卷之十四

竹の形若竹の似て節
高り分れ 高さ一丈五尺
小葉の葉の形似て
短く節の同遠さるものハ
二尺許り及へり



一種

唐竹
名知

疎節竹

萃逸考



本草図譜 卷之十四

本草図譜 卷之九十四

本草図譜 卷之九十四

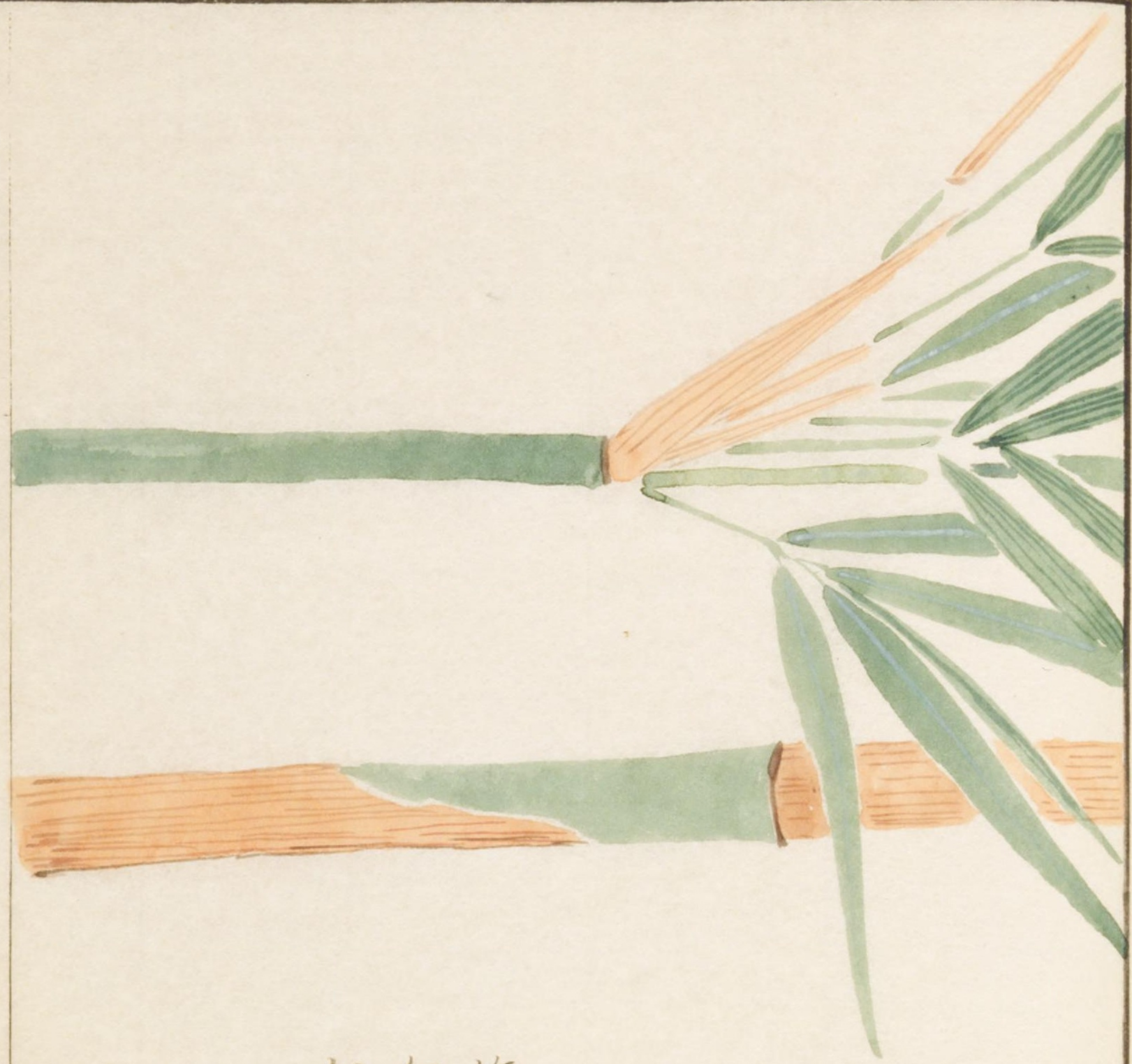


一種
麻手石竹
球玩

竹の形若竹に
似て細く葉ハ
形若葉に似て
色薄し



本草図譜 卷之九十四



竹の形大明竹に似て
細く葉ハめりけり似て
細く長く背より向へり



一種
迎葉竹

本草図譜 卷之九十四



本草図譜卷之九十六目錄

服帛類

衣帶	孝子衫	月經衣 <small>録附</small>	綿	帛	錦
			ワ	そくのきぬ	かき
				一	
頭巾	病人衣	汗衫	禪襦	布	絹
づきん		あせき	せんじ	ぬの	きぬ
三					

本草図譜 卷之九十六 目錄

本草図譜 卷之九十六 目錄

